

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 17-6号

2017年3月28日(火)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

「普段の生活だけで大変なのに、医療費負担が追い打ち」3/26 当事者のつどいに57名参加



つどいでは、すすめる会の和田浩会長から「子ども達の貧困の実態は深刻。行政は500円ぐらいの負担ならと考えるかもしれないが500円であっても大変な世帯は多い。受益者負担金のない窓口完全無料化に向けた運動にしましょう」とあいさつ。

続いて子育て中の母親から発言がありました。「息子の医療費で昨年1年間で13万円も支払い、そのうち負担金は17,000円にもなった。全国的に当たり前の窓口無料化を長野県でも一刻も早く」(35歳0さん)。「子どもが生まれてから驚くほど病院にかかる機会が多い。医療費の助成制度はありがたいが、500

円の負担金は無くして！」(3人を子育て中のSさん)。

難病連など障がい者の参加者からは「呼吸器を付けており普段の生活だけでも大変。医療費を支払うのに家計は自転車操業のようになっている」(ちごちごの会0さん)。「精神障がい者の年収は極めて低い。後日償還されるとはいえ、窓口で高額な医療費を請求されることは大変な負担になる」(ポプラの会Hさん)という発言がありました。

学校の現場からは、「家で絆創膏が買えないといって養護教諭に相談に来る子がいる」「一番に困ることは医療費が払えず歯科に行けない子が多いこと」(県教組Fさん)と学校で起こる貧困の実態が報告されました。

長野県民医連が取り組んだ小児科患者アンケートの結果も報告されました。

参加者からは「当事者からの話を聴いて窓口無料の必要が理解できた。子どもの歯科治療は一生の健康維持を左右させる問題。看護師をしているので今後のとりくみに生かしていきたい」といった感想が寄せられました。

すすめる会の湯浅事務局長は、当事者が声をあげることの大切さが共有できた。運動は県段階への運動をすすめるとともに今後は市町村段階への働きかけも重要になってきている。受益者負担金のない、一刻も早い完全窓口無料化の県民運動を大きくしていきましょうとまとめのあいさつを行いました。

県知事要請署名～賛同者・協力者の輪更に広がる

＜3/27 現在集計賛同団体・個人＞ 75団体（非公表含む）

4月15日全県一斉街頭宣伝署名行動を成功させよう！

現在、長野地区と松本地区では13:30～14:30 駅前で行動が計画されています。

その他の県下各地でも行動を計画しましょう。